

森林づくりに役立つ！

林業用の樹木における 開発品種等の最新情報



国立研究開発法人 森林研究・整備機構

森林総合研究所 林木育種センター

Forest Tree Breeding Center, Forestry and Forest Products Research Institute

パンフレットの使い方

このパンフレットは、森林総合研究所林木育種センターが近年開発した林業用樹木の品種等のうち代表的なものについて、苗木の生産や森林づくりをする際に役立てていただけるよう、その特性等を紹介したものです。

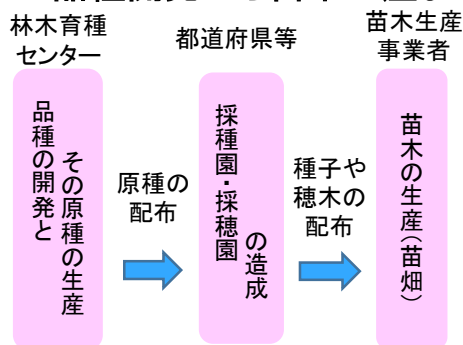
また、パンフレットで紹介した品種等の種子や穂木の入手先として、これらを生産している都道府県の採種園・採穂園(造成予定も含む)を巻末に掲載しました。

1 紹介している開発品種等とその特性

◎:とても優れている ○:優れている

品種・系統群	掲載ページ	樹 種	林業経営に役立つ特性	環境に配慮した特性
特定母樹	P3	スギ、ヒノキ、カラマツ、トドマツ	◎	◎
エリートツリー	P5	スギ、ヒノキ、カラマツ、トドマツ	◎	○
花粉症対策スギ・ヒノキ	P7	スギ、ヒノキ	○	◎
マツノザイセンチュウ抵抗性マツ	P9	アカマツ、クロマツ		◎
雪害抵抗性スギ	P11	スギ	◎	
材質優良スギ	P12	スギ	◎	
幹重量の大きいスギ・ヒノキ・カラマツ・トドマツ	P13	スギ、ヒノキ、カラマツ、トドマツ	◎	◎
材質優良カラマツ	P14	カラマツ	◎	
精英樹	P15	スギ、ヒノキ、カラマツ等	○	○

2 品種開発から苗木生産までの主な流れ



※原種・・・採種園・採穂園を造成するための苗木のことをいいます。
 ※苗木は生産に2～3年かかるため、希望する苗木が苗畑にない場合、注文から入手まで2～3年かかります。

3 開発品種を利用する際の留意点

森林総合研究所林木育種センターが開発した品種は、原種として都道府県等に配布され、都道府県等が造成する採種園・採穂園において、多くの種子や穂木に増殖されます。増殖された種子・穂木は、苗木生産事業者に供給され、苗畑において山行苗木に育てられ、植栽を行う森林所有者等の手元に届きます(前頁の図「品種開発から苗木生産までの主な流れ」参照。)

開発品種による苗木を利用するには、以下の点にご留意願います。

○種苗配布区域について

林業種苗法では苗木がよく育つように、樹種毎に気候などの自然条件が類似の区域を種苗の配布区域として定めており、基本的にこの配布区域を越えての苗木の移動はできません。スギ、ヒノキ、アカマツ、クロマツについて配布区域が定められています。(裏表紙参照。)詳細は森林総合研究所林木育種センターまたは、各育種場にお問合せください。

○実生苗について

都道府県から入手できる種子は、成長に優れるなど同じ特性を有する複数の品種の原種で構成(最低9品種以上、多くの場合は25品種以上)された採種園において、原種相互の受粉(交配)によってつくられます。

このため、これらの種子から育成された苗木は、遺伝的特性が少しずつ異なり遺伝的多様性が確保されているため、気象害や病虫害による一斉被害を避けることが期待できます。

しかしながら、このような交配によって得られた種子から生産する実生苗は、全体としては優れた特性を持っているものの、一本一本の苗木の特性が、パンフレットに掲載されている開発品種(原種)の特性とは必ずしも同じとはならないことに留意してください。

○さし木苗について

都道府県から入手できるさし木苗は、採穂園において開発品種の原種から育てた穂木から生産されるため、いわば原種のコピーとなるので、パンフレットに掲載されている開発品種(原種)の特性とほぼ同じになります。

どの苗木も全く同じ遺伝的特性を持っていることから、気象害や病虫害によって一斉に被害を受ける恐れを考慮して、全山に特定の品種のみを植栽しないよう注意する必要があります。

なお、九州地方等では昔からさし木苗の品種が使われていたため、長い時間の中で気象害や病虫害に弱い品種は淘汰されているものと考えられます。

特定母樹について

平成25年5月に改正された「森林の間伐等の実施の促進に関する特別措置法」に基づき、森林のCO₂吸収能力を高めるため、農林水産大臣は特に成長に優れたものを特定母樹として指定し、普及を図ることとしました。

特定母樹の指定は、一定の基準に基づき行われ、林木育種センターからは主としてエリートツリーの中から申請しています。

今後の人工造林は基本的に[※]特定母樹により行うこととされています。

※「基本的に」とは、特定母樹から採取する種穂によっては生産ができない地域特有のニーズ等に応じた種苗を除くことを意味します。

令和3年度までに、林木育種センターから申請したスギ214系統（うち153系統がエリートツリー）、ヒノキ58系統（全てエリートツリー）、カラマツ（グイマツを含む）81系統（うち80系統がエリートツリー）、トドマツ29系統（全てエリートツリー）の合計382系統が、大臣指定されました。この他、秋田県が申請したスギ10系統、千葉県が申請したスギ2系統、静岡県が申請したスギ30系統、ヒノキ27系統、島根県が申請したスギ5系統が指定されています。

特定母樹の指定基準

	指定基準
成長量	概ね10年生から20年生の間における単木材積が、在来の系統の概ね1.5倍以上である
材の剛性（ヤング率）	候補木と同様の林分の個体の平均値と比較して優れている
幹の通直性	曲がりがないか、若しくは曲がりがあっても採材に支障がないものである
雄花着花性（スギ、ヒノキ）	候補木周辺の林令の近い一般的なスギ、ヒノキの花粉量の概ね半分以下である

（参考）法律による特定母樹普及促進の支援措置

民間事業者による特定母樹の採種園・採穂園造成の促進を図ることとし、このような民間事業者は以下のような措置が受けられます。

- ① 特定母樹の増殖に必要な林業・木材産業改善資金（無利子資金）の償還期間の延長等
- ② 林業種苗法に基づく生産事業者の登録の手続きが不要

全国各地で指定された特定母樹(代表例)



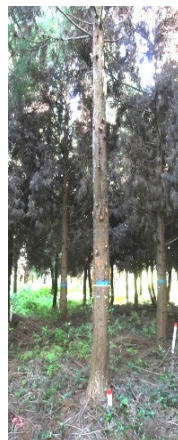
グイマツ・中標津5号
(北海道育種基本区)
グイマツ雑種 F_1 (グイ
マツ×カラマツ)の母樹
31年次樹高22.3m
胸高直径 22cm



スギ林育2-15
(関東育種基本区)
エリートツリー
20年次樹高14.0m
胸高直径 23cm



スギ西育2-1
(関西育種基本区)
エリートツリー
30年次樹高22.1m
胸高直径 24cm



スギ・県始良20号
(九州育種基本区)
少花粉品種
20年次樹高10.8m
胸高直径 16cm

※育種基本区:気象、土壌等の違いによる樹種や適応品種の違いに対応するため、全国を5つの地域に分け、「育種基本区」と呼んでいます。それぞれに育種場を設置して育種事業を実施しています。

精英樹・品種・特定母樹とは

精英樹: 成長等の形質に優れた樹木で、樹木の形質の改良のベースになると同時に、成長等の形質が優れているため、採種園・採穂園が造成され苗木として普及しており、現場では品種と同じように扱われています。なお、「エリートツリー」は第1世代精英樹の F_1 (子供世代)以降の中で特に優れている第2世代以降の次世代の精英樹です。

品種: 精英樹等から、特に、花粉が少ない、マツノザイセンチュウに強い、強度がある、根元曲がりが少ないなど、特定の性質に優れたものとして開発されたものです。

特定母樹: 特に優良な種苗を生産するための種穂の採取に適する樹木であって、成長に係る特性の特に優れたものとして国が指定するもので、これまで開発された精英樹や品種から二酸化炭素固定能力が大きいものが選ばれます。

初期成長に特に優れている樹木

エリートツリー

選抜期間:平成23年度～

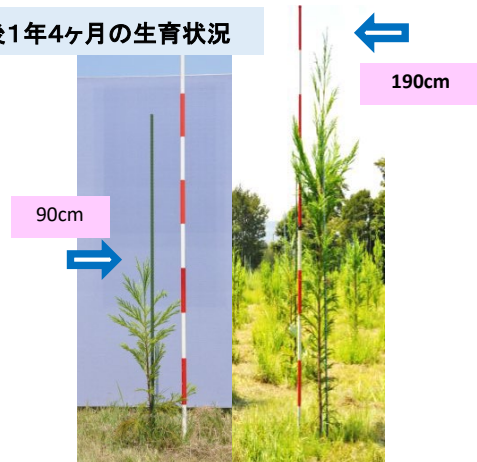
エリートツリーとは、第1世代精英樹の F_1 (子供世代)以降の中で特に優れている第2世代以降の次世代の精英樹です。

成長に優れていることから、林木育種センターの品種開発や特定母樹の申請に活用されています。

○選抜実績

令和3年度までにスギ627系統、
ヒノキ301系統、カラマツ122系統、
トドマツ50系統の合計1,100系統
を選抜。

植栽後1年4ヶ月の生育状況



各育種基本区で選抜されたエリートツリー(代表例)

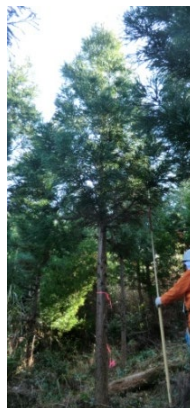
現在普及して エリートツリー
いるもの
(どちらもセンター敷地内に植栽)



スギ林育2-68
(関東育種基本区)



スギ西育2-1
(関西育種基本区)



スギ九育2-136
(九州育種基本区)

特性データ(スギ): 代表5クローン及び対照個体の平均値

関東育種基本区				関西育種基本区			
調査対象	樹高	胸高直径	材積	調査対象	樹高	胸高直径	材積
代表5クローン	14.6m	19.1cm	0.22m ³	代表5クローン	18.6m	24.0cm	0.40m ³
対照個体	10.9m	15.3cm	0.10m ³	対照個体	14.3m	16.1cm	0.17m ³

九州育種基本区			
調査対象	樹高	胸高直径	材積
代表5クローン	15.0m	23.0cm	0.30m ³
対照個体	10.0m	12.3cm	0.08m ³

関東育種基本区と九州育種基本区は20年次、関西育種基本区は30年次の測定値
対照個体は選抜した林分の平均的な個体

茨城県の採種園



平成24年に12クローンで造成されたエリートツリー採種園
(那珂市)平成25年5月撮影

選定基準

測定項目	選定基準
成長量(材積)	次代検定林において材積量が5段階評価で4以上(上位31%以内)
材の剛性 (ヤング率)	次代検定林において著しく劣っていない
通直性(幹)	曲がりがないか、若しくは曲がりがあっても採材に支障がないもの
雄花着花性 (スギ、ヒノキ)	候補木周囲の林令に近い一般的なスギ・ヒノキの平均値未満

花粉症対策に 都市近郊の森林づくりに

花粉症対策スギ・ヒノキ

開発期間：平成8年度～

開発品種数(少花粉):スギ147品種 ヒノキ55品種

(低花粉):スギ16品種

社会的な問題となっている花粉症に対する対策として、成長等の形質に優れた精英樹をベースとして、花粉量が極めて少ないスギ・ヒノキと無花粉スギを開発しました。

少花粉スギ・ヒノキの開発

雄花がほとんどない



少花粉スギ品種
(天竜4号)



一般的なスギ

雄花がほとんどない



少花粉ヒノキ品種
(西川4号)

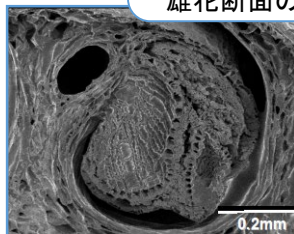


一般的なヒノキ

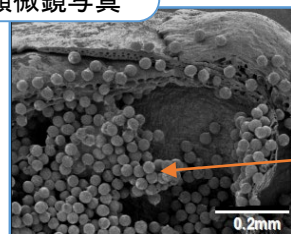
無花粉スギの開発

花粉を全く出さない無花粉スギを18品種開発しています。

雄花断面の顕微鏡写真



無花粉スギ(爽春)



一般的なスギ

花粉

群馬県のミニチュア採種園※



平成16年に12品種で造成された花粉症対策品種採種園（渋川市）

平成18年から採種、苗木の生産が始まっています。

※ミニチュア採種園：造成期間の短縮・採種作業効率化のために、通常より小さく仕立てた採種園。

選定基準

測定項目	選定基準
雄花 着花性	雄花の量を目視で「1:全くない」「2:非常に少ない」「3:普通」「4:多い」「5:非常に多い」で5年間評価して、5年間の平均が1.1以下のもの

少花粉スギ・ヒノキは精英樹から選ばれているので、成長等の特性にも優れています。

特性データ(スギ): 代表5品種の平均値

東北育種基本区			関東育種基本区		
調査対象	樹高	胸高直径	調査対象	樹高	胸高直径
代表5品種	7.7m	11.7cm	代表5品種	10.6m	14.8cm

関西育種基本区			九州育種基本区		
調査対象	樹高	胸高直径	調査対象	樹高	胸高直径
代表5品種	9.6m	13.9cm	代表5品種	11.2m	16.8cm

全育種基本区とも20年次のさし木データ

特性データ(ヒノキ): 代表5品種の平均値

関東育種基本区			関西育種基本区			九州育種基本区		
調査対象	樹高	胸高直径	調査対象	樹高	胸高直径	調査対象	樹高	胸高直径
代表5品種	9.1m	12.6cm	代表5品種	9.8m	13.8cm	代表5品種	9.3m	14.1cm

全育種基本区とも20年次の実生データ

マツノザイセンチュウに強いマツ

大切な海岸林や里山の整備に

マツノザイセンチュウ抵抗性
アカマツ・クロマツ

開発期間: 昭和59年度～

開発品種数: アカマツ303品種

クロマツ262品種

(うち第2世代アカマツ50品種、クロマツ67品種)

マツ枯れの激害地で生き残った抵抗性候補木をベースに開発しました。

さらに開発品種同士を交配して抵抗性を高めた、第2世代抵抗性品種の開発も始めています。

抵抗性品種開発の手順



① 激害地から抵抗性候補木を選抜



② 抵抗性候補木から枝または種子を採り、苗木養成



③ センチュウを人工接種



⑥ 抵抗性品種の採種園



⑤ 選定

選定基準: 生存率や健康度合の調査を行い、抵抗性の高いテーダマツ*等と比較して、それ以上の結果となったクロオンを合格木と判定。



④ 生存率の調査

※テーダマツ: マツノザイセンチュウの原産地である北アメリカに天然分布するマツで、マツノザイセンチュウに対する抵抗性が高い。

岡山県の採種園



昭和60～61年度に造成された、抵抗性アカマツ27品種による岡山県の採種園（勝田郡勝央町）
岡山県産の抵抗性アカマツを中心とした採種園で、県内の抵抗性アカマツ林の造成に寄与しています。

熊本県の採種園



昭和63年に造成された、抵抗性クロマツ16品種による熊本県の採種園（上益城郡甲佐町）

特性データ：代表5品種の平均値

樹種	特性データ
	子供（実生苗）の生存率
アカマツ	87.7%
クロマツ	67.9%

生存率は平成6年の九州育種場場内で採取した種子の実生苗で調査（センチュウは島原系統を5000頭接種）、対照（テーダマツ）の平均生存率は40.0%

雪による根元曲がり著しく少ない

雪害抵抗性スギ

開発期間：平成12年度～

開発品種数：46品種

多雪地帯における課題である根元曲がりへの対策として、根元曲がり著しく小さいスギを開発しました。

特性データ：代表2品種の平均値と対照個体

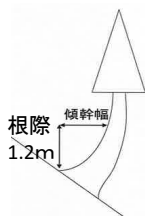
東北育種基本区				関西育種基本区			
調査対象	樹高	胸高直径	傾幹幅	調査対象	樹高	胸高直径	傾幹幅
代表2品種	4.2m	6.3cm	5.8cm	代表2品種	6.4m	9.1cm	11.0cm
対照個体	3.1m	5.1cm	25.0cm	対照個体	3.3m	5.2cm	40.0cm

東北育種基本区は10年次のさし木データ、関西育種基本区は10年次の実生及びさし木データ

対照個体は選抜した林分の平均的な個体

選定基準

測定項目	選定基準
根元曲がり (傾幹幅※)	育種区の候補木の中で5段階評価で4以上(上位31%以内)



※傾幹幅：
根元曲がりを表す指標で値が小さいほど雪害抵抗性が高い。

山形県の採種園



平成23年に造成された雪害抵抗性品種28品種による採種園(鶴岡市)

各育種基本区で選抜された雪害抵抗性スギ(代表例)



出羽の雪1号、出羽の雪2号
(東北育種基本区)



スギ・石動2号
(関西育種基本区)

剛性が特に優れた精英樹

材質優良スギ

開発期間 : 平成22～25年度

開発品種数: 41品種

スギの精英樹の中から、よりヤング率の高いものを選抜しました。

特性データ: 代表5品種及び対照精英樹の平均値

東北育種基本区				関東育種基本区			
調査対象	樹高	胸高直径	ヤング率	調査対象	樹高	胸高直径	ヤング率
代表5品種	12.6m	16.8cm	E90	代表5品種	14.8m	19.4cm	E90
対照精英樹	11.4m	15.5cm	E70	対照精英樹	14.3m	18.3cm	E70

関西育種基本区			
調査対象	樹高	胸高直径	ヤング率
代表5品種	9.9m	11.8cm	E90
対照精英樹	9.6m	11.1cm	E70

東北育種基本区及び関東育種基本区は30年次、関西育種基本区は20年次のさし木データ
対照精英樹はそれぞれの育種基本区の精英樹のうち東北44本、関東796本、関西192本の平均値

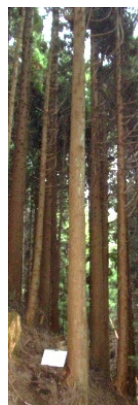
各育種基本区で選抜された材質優良スギ
(代表例)

選定基準

測定項目	選定基準
材の剛性 (ヤング率)	育種区※の精英樹の 中で5段階評価で4 以上(上位31%以内)

※育種区: 環境条件等により育種基本区をさらに細分化して育種区を設けています。

例えば関東育種基本区では、北関東、関東平野、中部山岳、東海の4育種区を設定しています。

スギ・三戸2号
(東北育種基本区)スギ・新見4号
(関西育種基本区)

CO₂の吸収・固定能力が高く 地球温暖化防止に更なる貢献

幹重量の大きい スギ・ヒノキ・カラマツ・トドマツ

開発期間 : 平成20～28年度
開発品種数: スギ69品種、ヒノキ29品種
カラマツ19品種
トドマツ11品種

CO₂の吸収源対策として、CO₂の吸収・固定能力が高い(成長が良く密度の高い)樹木を開発しました。

特性データ: 代表5品種及び対照精英樹の平均値(北海道育種基本区はトドマツ、その他の育種基本区はスギ)

北海道育種基本区				東北育種基本区				関東育種基本区			
調査対象	樹高	胸高直径	幹重量	調査対象	樹高	胸高直径	幹重量	調査対象	樹高	胸高直径	幹重量
代表5品種	8.3m	11.2cm	14.2kg	代表5品種	12.7m	17.6cm	52.3kg	代表5品種	16.1m	21.1cm	84.6kg
対照精英樹	7.7m	10.6cm	12.4kg	対照精英樹	11.4m	15.5cm	36.0kg	対照精英樹	14.6m	18.3cm	58.7kg

関西育種基本区				九州育種基本区			
調査対象	樹高	胸高直径	幹重量	調査対象	樹高	胸高直径	幹重量
代表5品種	15.5m	18.9cm	73.1kg	代表5品種	16.1m	22.7cm	104.5kg
対照精英樹	13.8m	18.3cm	62.2kg	対照精英樹	14.1m	19.6cm	70.6kg

北海道育種基本区は20年次の実生データ、その他の育種基本区は30年次のさし木データ

選定基準

測定項目	選定基準
幹重量※	育種区の精英樹の中で5段階評価で4以上(上位31%以内)

※幹重量: 材積×密度
大きいほどCO₂を幹に多く固定している。

各育種基本区で選抜された幹重量の大きいスギ等(代表例)



トドマツ・札幌101号
(北海道育種基本区)



スギ・古川6号
(東北育種基本区)



スギ・八頭2号
(関西育種基本区)



スギ・佐伯13号
(九州育種基本区)

材のねじれが小さく 加工しやすく 狂いの少ない

材質優良カラマツ

開発期間 : 昭和55～59年度

開発品種数: 229品種

ねじれが小さく建築材として使い易いなど、材質に優れたカラマツを開発しました。

特性データ: 代表5品種及び対照個体の平均値

北海道育種基本区					東北育種基本区				
調査対象	樹高	胸高直径	平均繊維傾斜度	ねじれ	調査対象	樹高	胸高直径	平均繊維傾斜度	ねじれ
代表5品種	22.6m	23.8cm	1.9%	3.5%	代表5品種	21.4m	21.0cm	1.8%	2.3%
対照個体	18.3m	20.8cm	4.3%	10.5%	対照個体	12.5m	13.4cm	3.8%	6.4%

関東育種基本区				
調査対象	樹高	胸高直径	平均繊維傾斜度	ねじれ
代表5品種	17.5m	21.8cm	1.6%	2.1%
対照個体	11.7m	14.3cm	4.0%	5.6%

北海道育種基本区は30年次、東北及び関東育種基本区は25年次のデータ

対照個体は選抜した林分の平均的な個体

各育種基本区で選抜された材質優良カラマツ (代表例)

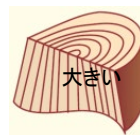
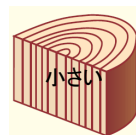

カラマツ・中標津93号
(北海道育種基本区)

カラマツ・材質長野21号
(関東育種基本区)

選定基準

測定項目	選定基準
胸高直径 樹高	選抜対象林分において上位10%に属する
繊維傾斜度※1 材のねじれ※2	平均繊維傾斜度: 2.5%以下 材のねじれ: 5%以下

繊維傾斜度



材のねじれ



小さい

大きい

※1 繊維傾斜度: 丸太を鉋で割って測定する。

※2 材のねじれ: 材のねじれの程度は、ねじれによって浮き上がった高さの、材の長さに対する割合で示す。

現在 森林づくりの主流となっている成長・材質に優れた樹木

精英樹

選抜期間 昭和29年度～（最盛期：昭和32年～33年）

選抜数：スギ3,670系統

ヒノキ1,058系統 カラマツ538系統

トドマツ782系統 アカエゾマツ338系統ほか

＜精英樹の選抜経緯＞

樹木の形質の改良のための素材として、昭和29年から全国の森林から成長等の形質に優れているものを約9,000個体選抜しました。これを「精英樹」と呼んでいます。

これらの精英樹で検定林を造成して調査を行い、調査データを解析して、それぞれの精英樹について成長や曲がり、材質等の形質の評価を行い、これを「精英樹特性表」として公表し、林木育種センターの品種開発にも活用しています。

都道府県では精英樹から採種園や採穂園を造成して、それまでよりも優れた性能を持つ種苗が苗木生産事業者に供給されてきました。これらの採種園等については、検定林の調査によって明らかとなった精英樹の中で特に優れたもの（推奨品種）を利用して、改良が行われています。

＜普及状況＞

この結果、現在、全国で造林されているスギ・ヒノキ・アカマツ・クロマツの約7割の苗木は、これらの採種園・採穂園から供給されています。

なお、精英樹による苗木の普及により、林分材積は在来種に比べて約15%増えたと報告されています。

青森県の採種園

各育種基本区で選抜された
精英樹（代表例）



スギ・高萩6号
（関東育種基本区）



スギ・上閉伊3号
（東北育種基本区）



平成13年に推奨品種等31品種で造成されたミニチュア採種園（十和田市）
青森県産業技術センター林業研究所

都道府県における開発品種の採種園・採穂園の設定状況

○…採種園(開発した品種による実生苗が入手可能)
 ◎…採穂園(開発した品種によるさし木苗が入手可能)

赤字は特定母樹を含む採種園・採穂園です。

○や◎の横に数字が入っているのは、採種園・採穂園が造成中で、その年度になれば苗木が入手できる場合です。

○や◎の横に未定と入っているのは、採種園・採穂園が造成中または造成を計画中で、苗木が入手できる時期が未定の場合です。

	エリートツリー			少花粉スギ・ヒノキ		無花粉スギ	マツノザイセンチュウ抵抗性マツ		雪害抵抗性スギ	材質優良スギ	幹重量の大きいスギ	材質優良カラマツ	精 英 樹				
	スギ	ヒノキ	カラマツ	スギ	ヒノキ	スギ	アカマツ	クロマツ	スギ	スギ	スギ	カラマツ	スギ	ヒノキ	カラマツ	アカエゾマツ	トドマツ
北海道													○		○	○	○
青森県				○◎		○◎		○R5					○◎R7		○◎R15		
岩手県				○◎			○	○未定				○	○◎		○◎未定		
宮城県				○◎			○	○					○◎未定◎	○	○未定		
秋田県				○◎			○	○	○				○◎未定◎				
山形県				○		○R4	○	○	○◎	○	○		○◎R6				
新潟県						◎	○	○R5					○◎未定				
福島県	○			○R5◎		◎R4		○					○◎	○			
茨城県	○			○	○		○	○					○◎	○			
栃木県	○未定			○◎	○R5		○						○	○			
群馬県		○未定	○R13	○	○	◎	○	○									
埼玉県				○◎	○								○	○			
千葉県	○未定			○	○		○	○					○	○			
東京都				○	○												
神奈川県				○	○	○		○					○	○			
山梨県	○未定	○未定	○未定	○	○	○未定							○	○	○		
長野県			○未定	○R7			○						○◎	○	○		
岐阜県			○未定	○		◎	○		○◎				○◎	○			
静岡県	○	○		○	○			○					○	○			
愛知県	○未定			○R4◎	○未定	◎未定							○◎	○			

※ 少花粉スギ・ヒノキ、無花粉スギには県が独自に開発した品種も含まれます。

	エリートツリー			少花粉スギ・ヒノキ		無花粉スギ	マツノザイセンチュウ抵抗性マツ		雪害抵抗性スギ	材質優良スギ	幹重量の大きいスギ	材質優良カラマツ	精 英 樹				
	スギ	ヒノキ	カラマツ	スギ	ヒノキ	スギ	アカマツ	クロマツ	スギ	スギ	スギ	カラマツ	スギ	ヒノキ	カラマツ	アカエゾマツ	トドマツ
富山県						○							○ ◎				
石川県				◎未定			○	○	○				○	○			
福井県						○R5	○	○R6					○				
三重県	○R5	○R5		○				○									
滋賀県				○	○		○		○		○ ◎		○ ◎	○			
京都府				○ ◎未定			○	○					○	○			
大阪府				◎R5													
兵庫県				○	○未定		○	○					○	○			
奈良県				○									○	○			
和歌山県	○	○未定 ◎未定		○ ◎		◎未定	○	○					○	○			
鳥取県				○R6 ◎	○R6		○	○					◎	○			
島根県		○R5		○	○		○	○	○ ◎				○ ◎	○			
岡山県		◎未定		○ ◎	○		○	○					◎				
広島県				◎	◎R10		○	○					○	○			
山口県	◎R7	◎R6		○R3			○	○					○	○			
徳島県	◎R6	◎R6		○R6									○	○			
香川県	◎R4	◎R5		○R5	○R6	◎	○	○					○	○			
愛媛県	○	○		○ ◎			○	○					○ ◎	○ ◎			
高知県	◎未定	◎未定		◎未定				○					○	○			
福岡県	◎R5			◎	◎R4			○ ◎未定			◎		◎	○ ◎			
佐賀県				◎			○	○					○ ◎	○			
長崎県	◎			○ ◎	○			○					○	○			
熊本県	◎未定			◎未定				◎未定			◎未定		◎未定				
大分県	◎			◎				○ ◎			◎		◎	○			
宮崎県	◎R4			◎				◎			◎R3		◎R3				
鹿児島県	◎未定			◎				○			◎		◎				
沖縄県																	

※ 少花粉スギ・ヒノキ、無花粉スギには県が独自に開発した品種も含まれます。

令和3年度時点

品種の開発状況等に関する各種お問い合わせ

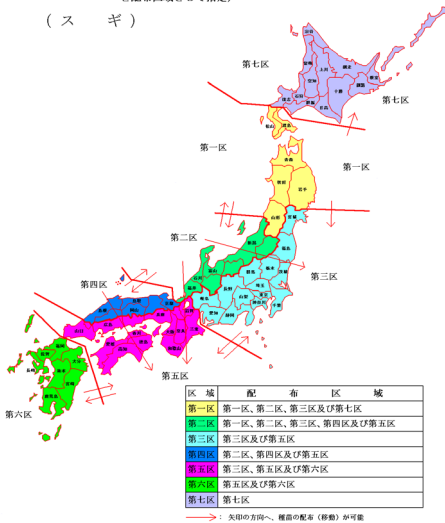
品種の開発状況に関するお問い合わせ		開発品種の採種園・採種園の設定状況に関するお問い合わせ			苗木の生産状況に関するお問い合わせ	
全国		森林総合研究所林木育種センター tel.0294-39-7000			全国山林種苗協同組合連合会 Tel.03-3262-3071	
北海道	森林総合研究所 林木育種センター 北海道育種場 tel.011-386-5087	北海道水産林務部林務局森林整備課	tel.	011-231-4111	北海道山林種苗協同組合	tel. 011-200-2211
青森県	森林総合研究所 林木育種センター 東北育種場 tel.019-688-4518	青森県産業技術センター 林業研究所	tel.	017-755-2417	青森県山林種苗協同組合 青森県森林組合連合会	tel. 017-766-6430 017-723-2657
岩手県		岩手県林業技術センター	tel.	019-697-1536	岩手県山林種苗協同組合	tel. 019-622-2729
宮城県		宮城県林業技術総合センター	tel.	022-345-2816	宮城県森林種苗農業協同組合	tel. 022-222-3661
秋田県		秋田県林業研究研修センター	tel.	018-882-4511	秋田県山林種苗協同組合	tel. 018-887-5676
山形県		山形県森林研究研修センター	tel.	0237-84-4301	山形県山林種苗協同組合	tel. 023-688-8100
新潟県		新潟県森林研究所	tel.	0254-72-1171	新潟県山林種苗協会	tel. 025-261-7110
福島県		福島県林業研究センター	tel.	024-945-2161	福島県森林種苗農業協同組合	tel. 024-523-5294
茨城県		茨城県林業技術センター	tel.	029-298-0304	茨城県林業種苗協同組合	tel. 029-221-4506
栃木県		栃木県林業センター	tel.	028-669-2211	栃木県山林種苗緑化樹協同組合	tel. 028-622-4893
群馬県		群馬県林業試験場	tel.	027-373-2300	群馬県山林種苗緑化協同組合	tel. 027-363-2847
埼玉県		埼玉県寄居林業事務所森林研究室	tel.	048-581-0123	埼玉県山林種苗協同組合	tel. 0493-72-1125
千葉県		千葉県農林総合研究センター 森林研究所	tel.	0475-88-0505	千葉県山林種苗緑化木協同組合	tel. 090-6478-8579
東京都	森林総合研究所 林木育種センター tel.0294-39-7000	東京都農林水産振興財団 東京都農林総合研究センター緑化森林科	tel.	042-528-0505	東京都山林種苗緑化樹生産組合	tel. 042-597-5990
神奈川県		神奈川県自然環境保全センター	tel.	046-248-0321	神奈川県山林種苗協同組合	tel. 0463-79-8315
山梨県	森林総合研究所 林木育種センター 関西育種場 tel.0868-38-5138	山梨県森林総合研究所	tel.	0556-22-8001	山梨県森林整備課 山梨県山林種苗緑化木協同組合 山梨県森林組合連合会	tel. 055-237-1111 055-235-3989 055-273-0511
長野県		長野県林業総合センター	tel.	0263-52-0600	長野県山林種苗協同組合	tel. 026-228-5561
岐阜県		岐阜県森林研究所	tel.	0575-33-2585	岐阜県山林種苗協同組合	tel. 057-454-4075
静岡県		静岡県森林整備課	tel.	054-221-2670	静岡県山林種苗協同組合連合会	tel. 054-254-8916
愛知県		愛知県森林・林業技術センター	tel.	0536-34-0321	愛知県林業種苗協同組合	tel. 052-961-9730
富山県		富山県農林水産総合技術センター 森林研究所	tel.	076-483-1511	富山県樹苗緑化協同組合	tel. 076-434-3351
石川県		石川県農林総合研究センター林業試験場	tel.	076-272-0673	石川県山林種苗協同組合	tel. 076-240-3461
福井県		福井県総合グリーンセンター	tel.	0776-67-0002	福井県産材活用課 福井県樹苗生産組合	tel. 0776-20-0698 0778-27-1330
三重県		三重県林業研究所	tel.	059-262-5351	三重県林業種苗協同組合連合会	tel. 059-228-7387
滋賀県		滋賀県びわ湖材流通推進課	tel.	077-587-2655	滋賀県山林種苗協同組合	tel. 0740-38-3900
京都府	森林総合研究所 林木育種センター 関西育種場 tel.0868-38-5138	京都府農林水産技術センター 農林センター森林技術センター緑化センター	tel.	0773-38-0066	京都府山林種苗緑化樹組合	tel. 075-841-1030
大阪府		大阪府立環境農林水産総合研究所	tel.	072-833-2770	大阪府森づくり課	tel. 06-6210-9559
兵庫県		兵庫県立農林水産技術総合センター 森林林業技術センター	tel.	0790-62-2118	兵庫県林業種苗協同組合	tel. 078-351-0734
奈良県		奈良県森林技術センター	tel.	0744-52-2380	奈良県山林種苗協同組合	tel. 0742-27-7471
和歌山県		和歌山県林業試験場	tel.	0739-47-2468	和歌山県山林種苗協同組合	tel. 073-424-4351
鳥取県		鳥取県林業試験場	tel.	0858-85-6221	鳥取県山林樹苗協同組合	tel. 0857-28-4886
島根県		島根県立緑化センター	tel.	0852-66-3005	島根県林業種苗協同組合	tel. 0852-25-9348
岡山県		岡山県農林水産総合センター 森林研究所	tel.	0868-38-3151	岡山県山林種苗協同組合	tel. 0868-24-0077
広島県		広島県立総合技術研究所 林業技術センター	tel.	0824-63-5181	広島県樹苗農業協同組合	tel. 082-228-5437
山口県		山口県農林総合技術センター	tel.	0835-28-1211	山口県樹苗生産農業協同組合	tel. 083-922-5108
徳島県	森林総合研究所 林木育種センター 九州育種場 tel.096-242-3151	徳島県立農林水産総合技術支援センター 資源環境研究課	tel.	088-674-1660	徳島県林業種苗協同組合	tel. 088-676-2200
香川県		香川県森林センター	tel.	0877-77-2515	香川県山林種苗協同組合	tel. 087-861-4352
愛媛県		愛媛県農林水産研究所 林業研究センター	tel.	0892-21-2266	愛媛県山林種苗農業協同組合	tel. 089-963-2001
高知県		高知県立森林技術センター	tel.	0887-52-5105	高知県種苗緑化協同組合	tel. 0887-53-4161
福岡県		福岡県農林業総合試験場 資源活用研究センター森林林業部	tel.	0942-45-7982	福岡県樹苗農業協同組合	tel. 0946-22-8881
佐賀県		佐賀県林業試験場	tel.	0952-62-0054	佐賀県山林種苗緑化協同組合	tel. 0952-24-3663
長崎県		長崎県農林技術開発センター 森林研究部門	tel.	0957-26-3330	長崎県樹苗生産組合	tel. 0957-54-5705
熊本県		熊本県林業研究・研修センター	tel.	096-339-2221	熊本県樹苗協同組合	tel. 096-288-6722
大分県		大分県農林水産研究指導センター 林業研究部	tel.	0973-23-2146	大分県樹苗生産農業協同組合	tel. 097-545-1322
宮崎県		宮崎県林業技術センター	tel.	0982-66-2888	宮崎県緑化樹苗農業協同組合	tel. 0985-22-2829
鹿児島県	森林総合研究所 林木育種センター 九州育種場 tel.096-242-3151	鹿児島県森林技術総合センター	tel.	0995-52-0074	鹿児島県山林種苗協同組合	tel. 099-222-2494
沖縄県		沖縄県森林資源研究センター	tel.	0980-52-2091	沖縄県森林管理課林業経営班	tel. 098-866-2295

種苗配布区域

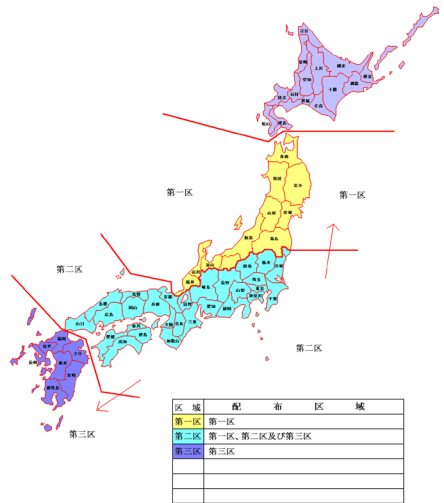
林業種苗法の配布区域について

林業種苗法では、造林の適正かつ円滑な推進を図るため種苗の配布区域を定めている。（下図を参照）
（※ 配布区域：一定の区域で、自然条件から見て育成に適すると認められる区域を配布区域として指定）

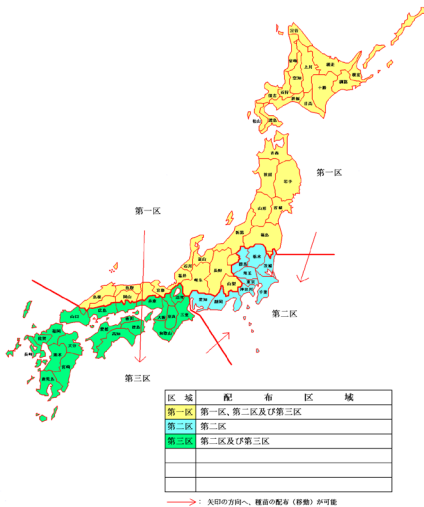
（スギ）



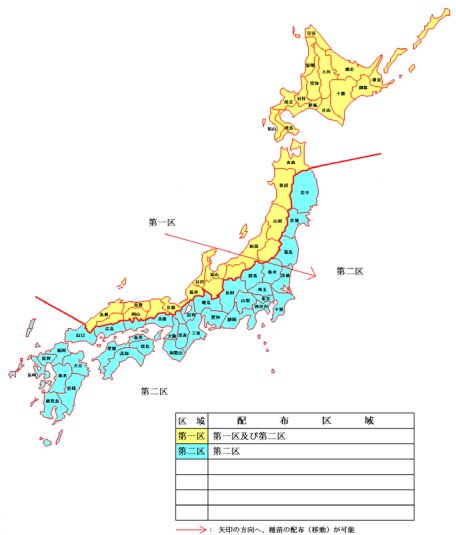
（ヒノキ）



（アカマツ）



（クロマツ）



国立研究開発法人森林研究・整備機構
森林総合研究所林木育種センター

〒319-1301 茨城県日立市十王町伊師3809-1

電話 0294-39-7000 (代表)

ホームページ <https://www.ffpri.affrc.go.jp/ftbc/index.html>

掲載内容の無断転載を禁じます。

令和4年6月改編版